

平成20年度 第2回 ExTEND2005 化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会議事要旨抜粋（議事録より事務局作成）

I 日時：平成21年3月3日（火） 14:00～16:00

II 場所：中央合同庁舎5号館22階 環境省第1会議室

III 出席委員：北野大（座長）、井上達、上路雅子、崎田裕子、佐藤洋、高橋道人、立川涼、遠山千春
事務局：原環境保健部長、木村環境安全課長他

IV 議題：

- (1) 基盤的研究・野生生物の生物学的知見収集の推進について
- (2) 作用・影響評価について
- (3) 国際協力関係事業について
- (4) リスクコミュニケーションの推進について
- (5) その他

V 議事要旨（議題2 作用・影響評価について 一部抜粋）

ExTEND2005における試験対象物質の検討について、「化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班」における検討結果に基づく第2回作用・影響評価検討部会での審議結果について報告・説明がなされた。

委員からの主な意見及びそれらの対応に関する発言の要旨は以下のとおり。

【委員からの主な意見】

- ・評価のプロセスの公平性、公開性を示すという意味で、今後の作業班で行われる作業及び部会での検討については、事前に十分な資料を提供するか、作業の経緯を説明する資料を提出して、効率よく会議を運営していただきたい。
- ・根拠となる文献が、動物実験によるものや*in vitro*の試験によるものと様々であり、いろいろ証拠の重み、軽みがある。それらの違いをどのように扱っていくのか、きちんと評価の基準判定の根拠を示してから取り掛かっていただきたい。

- ・一度評価されたものをその後にもまた検討を続けるということについて、なぜ評価対象に入ったのかをはっきりと出していただきたい。また、過去になされた評価や評価に携われた方の意見も、留意した上で判断していただきたい。

【対応に関する発言】

- ・評価基準や判定の根拠については、議事録として口頭説明は残しつつ、作業部会の結果にも反映するように改定する。
- ・試験対象物質候補の選定についても、より透明性を確保しながら、今後とも進めていくようにしていきたい。
- ・評価基準をどこまで細かくしていくのかについては、専門家の判断による部分もあるので、今後の議論の中で検討していきたい。
- ・検討する物質については、まずばく露性のあるものから選び、文献による評価を経て、今後試験を行うのか検討していくものと考えている。
- ・今後、文献評価により選ばれた物質の試験については、どの物質から始めるのか等の方法について検討を行い、その方針に基づいて試験を進めていきたい。その際には、検討対象とした物質の全てが内分泌かく乱物質であるかのような誤解をされないように留意していきたいと考えている。